

## 臼杵 有光（ウスキ アリミツ）

### Arimitsu USUKI

（株）豊田中央研究所リサーチ・アドバイザー・1955年生・  
名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了  
高分子学会副会長・元東海支部支部長  
Research Advisor, Toyota Central R&D Labs., Inc., Born in  
1955, Degree: Dr. Eng. (1997, Nagoya University)  
Vice President of The Society of Polymer Science, Japan



私は自身の研究活動において 30 年以上高分子学会の会員として学び、多くのサポートをしていただきました。このたび次期会長候補に推薦を賜り大変光栄です。企業研究者として理事、副会長に従事した経験を踏まえ、少しでも会員の皆様のニーズに応えるような活動に発展するよう努力してまいります。

・学会の位置づけ：学会は、会員が発表し自由に討論する会員のために開かれた場であり、そこから多くを学ぶことのできる場でもあります。参加して良かった、次も参加したいと思われる運営を心がけます。年会と討論会は踏襲します。その他の講演会、支部・研究会行事などは会員目線により良いものに見直していきます。

・会員の声、希望を聞いた中からの運営方針決定：会員の減少に伴い、学会運営は必ずしも安泰ではありません。従来からの継続で運営を行ってはこの先の弱体化は免れません。そのためにムダ、ムリ、ムラを無くすこと、かつ現場で良く話し合うことで実施いたします。本部とは別に 8 支部、22 研究会のご協力の下、活発な活動が行われています。各支部、研究会の更なる活性化のため意見を吸い上げ、自発的運営を促進します。

・産業界と研究機関との連携強化：産業界が得意とする「モノづくり」を強化するため、産業界と大学などとの出会いからの融合の場を提供いたします。また、他学会との連携行事や、必要に応じ研究会の新設も考えます。

・海外への情報発信：研究者の人脈や企業の海外拠点などを中心として、日本の学会活動の情報を常に発信し続けていきます。

・人材育成：2011 年度に始まった Webinar を教育の観点からも継続し、若手人材の育成に繋がります。また更に若い世代への理解活動も進めていきます。

学会活動がボランティアであると言う認識は捨てて、自分自身だけではなく、研究室、企業がさらに向上するために、会員の皆さんが積極的に関わり、参加する学会であり続けたいと考えています。

中條 善樹 (チュウジョウ ヨシキ)

Yoshiki CHUJO

京都大学大学院工学研究科教授・1952年生・  
京都大学大学院工学研究科博士課程修了  
高分子学会前業務執行理事

Professor, Department of Polymer Chemistry, Graduate  
School of Engineering, Kyoto University, Born in 1952,  
Ph.D. (1980, Kyoto University)

The Former Executive Director, The Society of Polymer  
Science, Japan



## 高分子学会会員の皆様の力で日本を元気にしていきましょう

高分子分野で世界最大の科学者・技術者の集まりである伝統ある高分子学会の会長候補者に選んで頂き、光栄に存じます。先達がこれまでに築いて来られたものを大切にするとともに、長期戦略に立って、会員の皆様の持つ「**高分子力**」で日本を元気にしていけるよう学会運営に取り組みます。このために、**四大大行事**の充実はもちろんのこと、更に次の諸点を実行していきたいと考えています。

◎誇れて楽しめる学会に 各支部との連携を密にした行事を企画運営することにより、会員が楽しく参加できる学会にしたいと思えます。**学会参加費補助制度**の新設、**若手への授賞制度**の拡充、興味を持ってもらえる**ホームページ・会誌**を目指す更なる工夫、**会員が便利に使えるIT化**の促進、**事務局運営の効率化**等を強力に進めていきます。

◎世界をリードする学会に 世界の高分子科学分野での本学会の貢献は非常に大きいものがあります。これを更に飛躍させ、世界のリーダー学会となるために力を尽くします。国内外の他学会との**合同シンポジウム開催**、**予稿集や発表資料の英語化**、**ITの戦略的活用**等、国際交流・貢献を積極的に進め、世界に向けた発信力の向上に努めます。

◎将来を託す元気な産官学人材の育成を目指す学会に 「**高分子に夢を抱く**」若手研究者・技術者を育てることは学会の責務です。**高分子同友会**との連携を密にとりながら、**産官学連携委員会**を新たに立ち上げ、その互惠関係を強化する**Webinar**等の**教育プログラム**を充実させます。さらに、学会主導の**大型プロジェクト**を積極的に進め、産官学一体となって高分子分野の活性化をはかります。

◎輝く未来を指向する学会に 高分子学会として何が期待され、求められているかを具体的にまとめ、腰を据えた**長期ビジョン**に立った**ロードマップ**を作成します。将来に向けた夢のサイエンス・高分子材料の実現のためにも極めて重要であると考えます。

## 渡邊 正義 (ワタナベ マサヨシ)

### Masayoshi WATANABE

横浜国立大学大学院工学研究院教授・1954年・  
早稲田大学大学院理工学研究科博士課程中退  
高分子学会副会長

Professor, Graduate School of Engineering, Yokohama  
National University

Degree: Dr. Eng. (Waseda University)

Vice President of The Society of Polymer Science, Japan



高分子学会の最大の財産は、ここに集う優秀な人材です。しかし現在、他の化学系学会と同様にその会員数は減少傾向にあり、特に企業の個人会員数の減少が顕著な状況になっています。この会員数の減少を食い止めるための努力を継続することは勿論ですが、**人口減少時代、ICT時代に即した学会の体質改善も必要**と考えます。同時に、研究会、高分子同友会、若い会員の意見を取り入れることにより、**学会の特徴を育て、産学の交流、国際的な存在感のアップを図ります。**

**1. 体幹を鍛える：** 学会の体幹は本部事業です。4大行事の実施と学術刊行物の発行を通して会員への情報サービスと学術交流の場の提供がその基幹となります。同時に、会員減少による収入減を阻止し、学会の財政を健全化することも急務です。そこで、高分子学会の人的資源を最大限に生かし、法人会員の社員に対する高分子基礎教育を担う Webinar およびビデオ配信を充実させ、これを収益事業に育てます。

**2. 学会の特徴を育てる：** 学会として時代に合った的確でスピード感のある、そして特徴のある活動を実施するために、研究会の意見を本部に反映させる仕組みを作ります。特に、今後学会として発展の見込める分野、大型プロジェクトの獲得が期待できる分野に関しては、高分子同友会とも連携して本部主導で研究会を育成することも視野に入れます。

**3. 産学の交流、国際化を図る：** 学生が企業の研究開発を理解できるような、そして企業にとっては自社を紹介できるような場を年会に設けます。また学会の将来像を産学で議論する機会を設け、特に産業界の意見を重視したいと思います。国際化に関しては次世代を担う若い会員の意見を最大限反映させ、国内外の学会との国際交流を促進し、同時に本会のプレゼンスを高める施策を継続させます。